

妊娠はするけれど流産や死産を繰り返してしまう人、流産は仕方のないことと諦めてしまわず、リスク因子を明らかにし治療することが大事です。年令の高い人はリスク因子の有無を早めに明らかにし流産を予防することも大事です。

《不育症とは？》

- * 2回以上の流産と、死産または早期新生児死亡を経験したことがある場合を不育症と定義する
- * 流産は、全妊娠の約10～20%に起こり、女性の年齢とともに流産率が上がる
流産率平均15% 35歳20%、40歳40%、42歳50%、42歳以上80～90%
- * 2回の流産経験者は約4%。3回以上の流産経験者は約1%。また流産を1回経験した人は40%いた
- * 妊娠反応が陽性と出て、その後に月経がくる生化学妊娠（化学流産）は、30～40%に起こる
- * 生化学妊娠（化学流産）は、流産回数にカウントしない
- * 不育症検査を行っても、リスク因子がわからないことが40%ほどあるが、そのほとんどが胎児の染色体異常を偶然繰り返したケースの可能性が高い
- * 不育症に悩む約85%が出産することができている

【2015年9月～12月末までのARTの成績と、年間の成績を掲載します。】

(2015.9/1～12/31)

採卵件数・・・142例【～29歳4例、30～34歳22例、35～39歳50例、40歳～57例、45歳～9例】

受精方法別 {
体外受精・・・107例
顕微授精・・・29例

融解件数・・・157例【～29歳9例、30～34歳35例、35～39歳71例、40～44歳39例、45歳～3例】

移植件数・・・162例【～29歳9例、30～34歳36例、35～39歳72例、40～44歳42例、45歳～3例】

妊娠数・妊娠率（移植あたりの胎嚢陽性率）・・・62例(38.3%)

【～29歳5例(55.6%),30～34歳21例(58.3%),35～39歳31例(43.1%)
40～44歳5例(11.9%),45歳～0(0.0%)】

(2015.1/1～12/31)

採卵件数・・・405例【～29歳20例、30～34歳65例、35～39歳124例、40～44歳168例、45歳～28例】

受精方法別 {
体外受精・・・284例
顕微授精・・・100例

融解件数・・・393例【～29歳26例、30～34歳91例、35～39歳161例、40～44歳107例、45歳～8例】

移植件数・・・400例【～29歳27例、30～34歳90例、35～39歳163例、40～44歳111例、45歳～9例】

妊娠数・妊娠率（移植あたりの胎嚢陽性率）・・・150例(37.5%)

【～29歳13例(48.1%),30～34歳46例(51.1%),35～39歳65例(39.9%)
40～44歳25例(22.5%),45歳～1(11.1%)】

今年も更なる飛躍の年にすべく、従業員一同頑張っていきたいと存じます。宜しくお願いします。